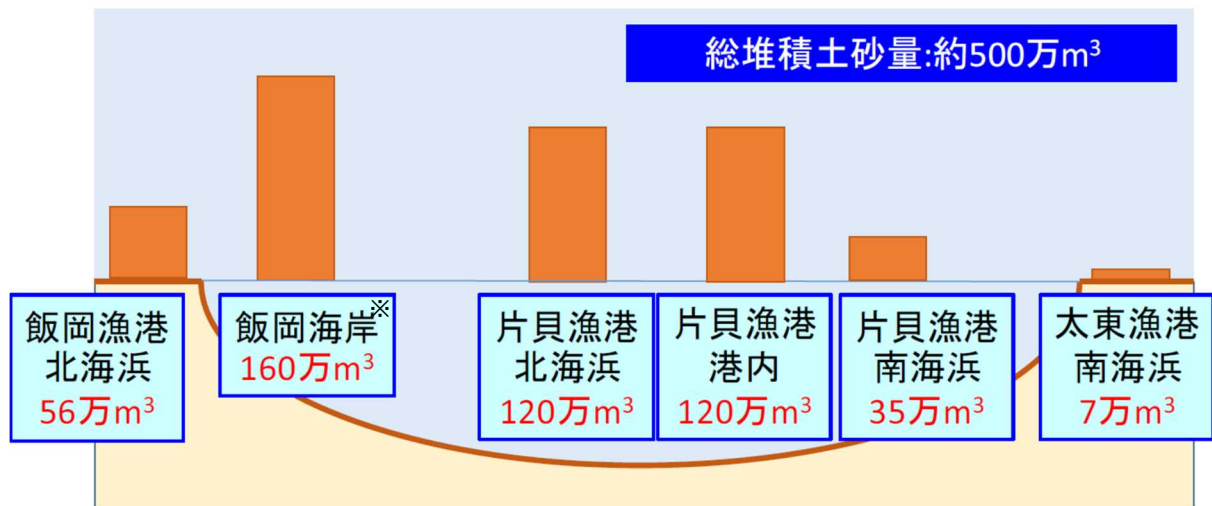


### 2.3 土砂堆積の現状

九十九里浜沿岸では、漁港区域周辺など、砂が顕著に堆積しているところもあり、その総量は約500万 $m^3$ にも達しています。



※飯岡海岸の堆積土砂量は約230万 $m^3$ であるが、必要砂浜確保に必要な約70万 $m^3$ を除いた量としている。

図-2.12 九十九里浜における顕著な土砂堆積箇所と堆積量

飯岡漁港、片貝漁港および太東漁港の防波堤延伸に伴い、沿岸漂砂が堆積している箇所が見られます。

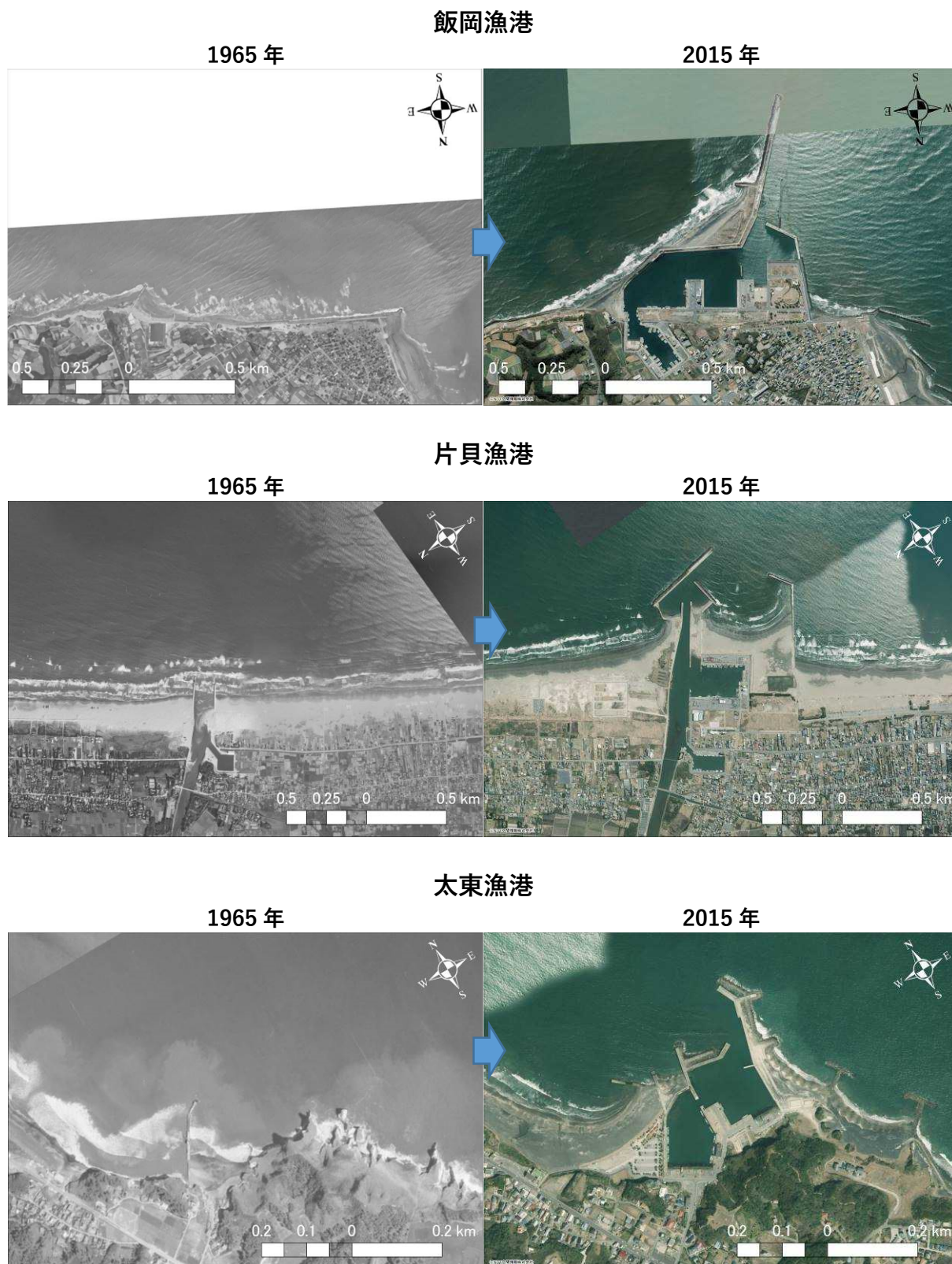


図-2.13 飯岡・片貝・太東漁港周辺海岸の変化(1965年と2015年)

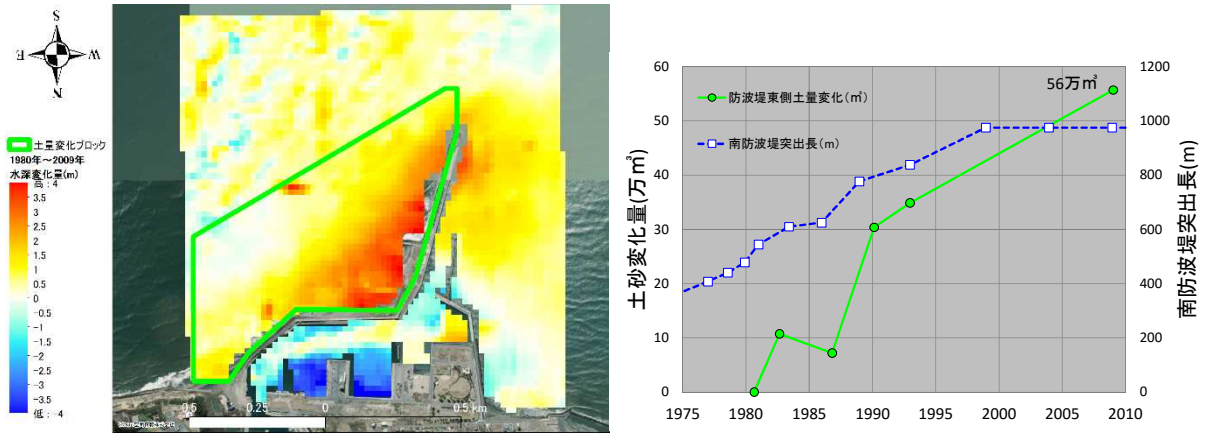


図-2.14 飯岡漁港防波堤北海浜の土砂堆積状況

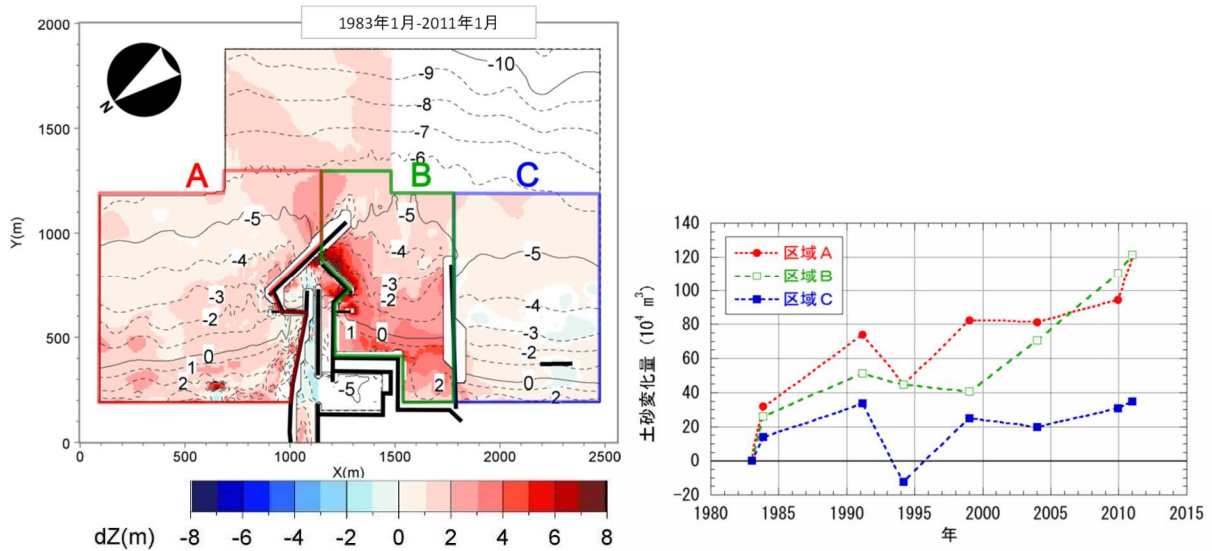


図-2.15 片貝漁港周辺の土砂堆積状況



図-2.16 太東漁港周辺の土砂堆積状況

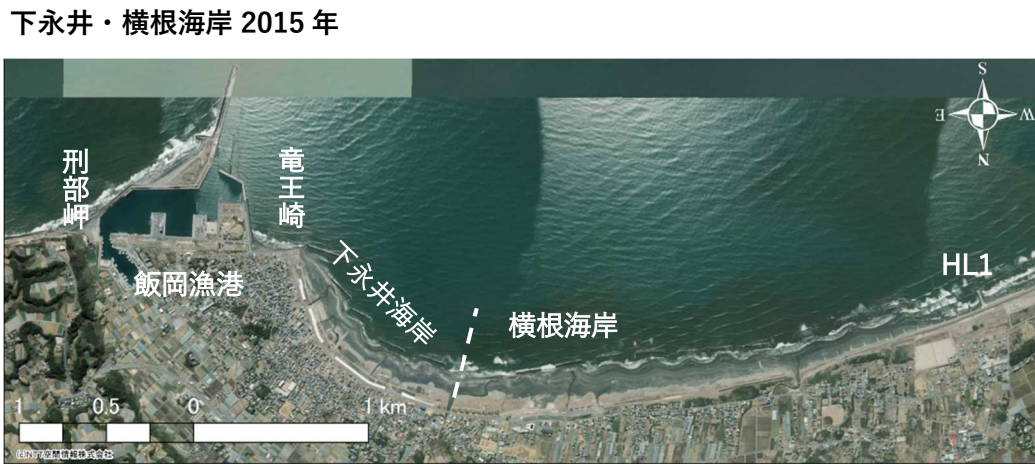
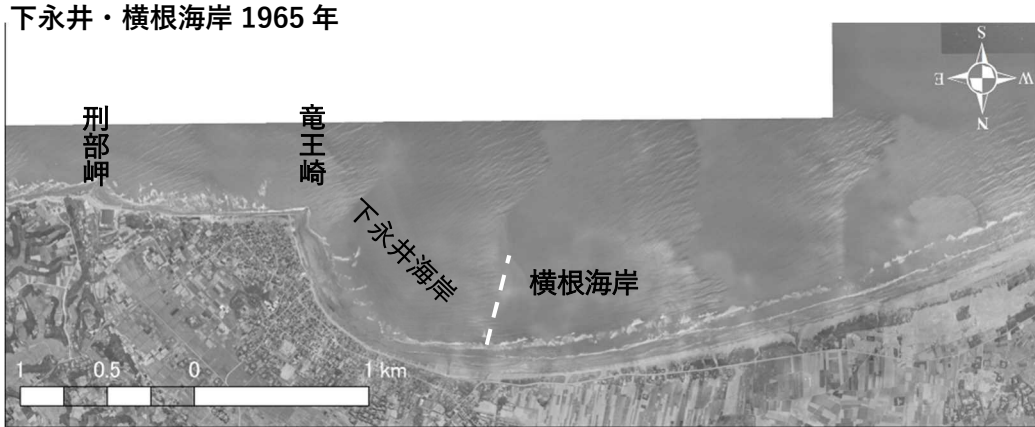


図-2.17 下永井・横根海岸周辺の海岸地形の変化(1965年と2015年)

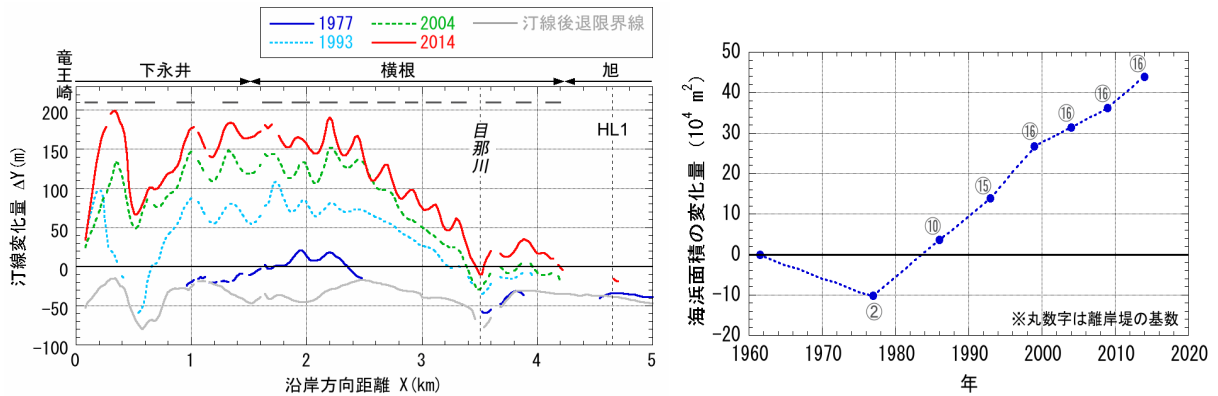


図-2.18 下永井・横根海岸離岸堤背後の土砂堆積状況

北九十九里浜の北側に位置する下永井海岸から横根海岸にかけて建設された離岸堤背後の堆積量は、約 230 万  $m^3$  と推定します。このうち 70 万  $m^3$  は必要砂浜幅 40m の確保に必要な土砂量であることから、利用可能な堆積土砂量は約 160 万  $m^3$  と推定しています。

## 2.4 海岸利用の状況



図-2.19 九十九里浜の海水浴場の変遷



図-2.20 中里・一松海水浴場の変化

九十九里浜における海水浴場は、砂浜の侵食もあり年々、開設される箇所は減少しています。



図-2.21 サーフィン・祭り・地引網漁としての利用状況

九十九里浜はサーフィン、祭り、地引網漁の場としても利用されています。特に、一宮町の釣ヶ崎海岸では国際的なサーフィン大会も開催されており、東京 2020 オリンピックのサーフィン会場にも選ばれています。